



MONTHLY

かわせみ通信

4月号

2024年4月

Vol.176

発行所



本社/三重県四日市市午起2丁目4番18号(〒510-0023)

TEL.059-332-5122(代) <https://www.tokai-techno.co.jp>

未来へつなぐ ～気候変動：持続可能な地球であるために～

「不都合な真実」。みなさんはこの映画をご存知でしょうか？アル・ゴア氏が45代アメリカ合衆国 副大統領退任後の2006年に、自身がライフワークとしている地球温暖化問題の講演風景をドキュメンタリー風に映画化した作品です。冒頭は、木漏れ陽の中を流れる自然豊かな風景の川に始まり、いま現実に地球で起きている北極の氷塊融解、キリマンジャ口の氷河の経年変化による減少など様々な衝撃的な映像を交えて、地球温暖化の実情を訴えた映画となっています。

以前より、レイチェル・カーソン著「沈黙の春」は、環境問題を取り上げた書籍として有名です。しかし、こちらは1960年代という時代背景もあり、当時日進月歩で開発されていた化学物質として、特にDDTやアルドリノ等の農薬が生態系に及ぼす影響について書かれています。強力な殺虫剤や農薬で害虫を防除することで生態系のバランスを崩し、「鳥の鳴き声が聞こえない春がくる」と環境問題に警笛を鳴らした本です。

従来は環境問題の主流といえば、「沈黙の春」のように化学物質などの公害問題であったものが、今や「不都合な真実」が取り上げているように地球環境問題へと変革していています。この中で示された個々の異常気象と地球温暖化との因果関係は、科学的に証明されている

ものばかりではないようですが、昨今の地球温暖化問題に対して大きな一石を投じた作品でした。映画の題目に使われている「不都合」ですが、当時、環境問題への対策といえば、エネルギー使用量削減要求によって生じる生産活動への影響や、排出ガス規制による自国の自動車業界に対する大きな負担など、経済活動に対して利益相反的な影響が考えられるものでした。

しかし、映画が上映されてから18年が経とうとする今、この「不都合」に蓋をすること自体が、今度は自社の経済活動を含めた利益の妨げになる時代へと変革してきました。最近注目されているものとして、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）と呼ばれる国際的な組織があります。ここでは2017年に、気候変動がその事業等にもたらす「リス

ク」や「機会」の財務的影響を把握し、開示する必要があるという、一般的にTCFD提言と呼ばれる内容の報告書を公表しました。今では多くの企業がこの提言を満たすために日々温室効果ガス（GHG）排出量削減に向けた活動を始め、どんどん活発化していています。

映画の話に戻りますが、「不都合な真実」の中でゴア氏は次の言葉を発しています。“大きな衝撃があって初めて人は危険に気づく、もし危険が迫っていてもそれがじわじわと来る場合は気づかずにじっとしたまま行動を起こさない。”この映画が上映されている頃には想像すらしていなかったCOVID-19、まさに現代の大きな衝撃だと思えます。その時私達は、外出の自粛や、長期に渡るマスク生活も経験しましたし、そしてそれらを克服もしてきました。しかし、じわじわ迫る地球温暖化という脅威には、少しずつ動き出したかもしれませんが、まだ行動を起こしているうちには入らないのかもしれない。世の中には地球温暖化に対して懐疑的な意見もありますが、少なくとも脱炭素に向けた世界のベクトルや活動は決して私達のマイナスになるものではないと思えます。今一度みんなで身の回りを見渡して省エネ、リサイクル、食品ロスなど脱炭素に繋がりそうなものを見直して行動を起こしては見えませんか？



ココに技あり！ 脱炭素経営への一歩

当社は2023年5月に三重県が実施する「脱炭素経営支援事業」の支援先企業として、中小企業向けSBT認定を取得しました。脱炭素経営に向けて行った2023年の活動を紹介します。GHG（温室効果ガス）排出量を算出するためのデータ収集や計算は困難と思えることも多々ありますが、今後も着実に活動を進めていきたいとテーマを選択中です。活動の詳細は弊社HPをご参照ください。 <https://www.tokai-techno.co.jp/sustainability/ghg/>

2023年 3月	RE100対応 再生可能エネルギー電力への切り替え
2023年 4月	プレゼントツリー植樹（71本）
2023年 5月	中小企業向けSBT認定の取得
2023年 8月	脱炭素化取組推進事業（SHIFT事業）採択
2023年11月	WEBセミナー「脱炭素経営の重要性と自社のGHG排出量の可視化」実施
2023年12月	EV充電設備の設置

東海テクノからのお知らせ

弊社は2023年10月に4事業部に移行し、その一環として、企画開発事業部が新設され、環境事業部から独立しました。この再編により、四日市分析センターの事務所を改装し、環境事業部は営業を含む全てのグループが同じ拠点に集結する形となっております。また4月には新入社員9名を迎え入れました。今後も、益々皆様にご貢献していける企業を目指してまいります。今年度も何卒よろしくお願いいたします。

社員プチコラム 湊川 透也（環境事業部 サーベイGr）

私は趣味で釣りをしているのですが、最近はカヤックフィッシングにはまっています。仕事中は座っている時間が長いので、2～3 km程沖にカヤックを漕ぐのは運動不足の解消にもなります。YouTube等を見ながら自作した釣具を使用して釣りをしますが、当然のように市販品の釣具の方がよく釣れます。しかし、自作した釣具で釣れると市販品で釣れた時とは違った喜びや嬉しさがあります。今年に入ってから気候に恵まれずなかなか釣りに行けてなかったのですが、最近は暖かくなり魚も自分も活発になってきたので次の週末にでも釣りに行こうと思います。



編集後記

4月がスタートし、皆様の周囲も環境が変わられている方も多いかもしれません。私どもも「お知らせ」でお伝えしているとおり、かなり環境が変わりました。お客様へはご迷惑をお掛けしておりますが、ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。（みっちー）



社員プチコラム